

袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	平成30年1月 袋井市教育委員会 定例会
招集日時	平成30年1月25日（木）午後1時30分
会議時間	午後1時30分から午後3時53分まで（2時間23分）
場 所	市役所302会議室
出 席 者	鈴木典夫 教育長 前嶋康枝 委員 上原富夫 委員 豊田君子 委員 大谷純應 委員 （計：5人）
欠 席 者	無し
傍 聴 者	無し
当局出席者	大河原幸夫 教育部長 早川俊之 教育企画課長 川村佳典 おいしい給食課長 乗松里好 すこやか子ども課長 鴻野元希 育ちの森所長 平野邦孝 学校教育課長 杉山明子 生涯学習課長 山本義孝 袋井図書館長 嶋田修 教育企画課主幹（幼小中一貫教育推進室） 伊藤千ひろ 教育企画課総務企画係長 （合計：15人）
会議に付した 事件	別紙「平成30年1月 袋井市教育委員会定例会 議事日程」の とおり

平成 30 年 1 月 袋井市教育委員会定例会 日程

日時：平成 30 年 1 月 25 日（木）午後 1 時 30 分開会

場所：袋井市役所 302 会議室

会 議 日 程

日程第 1 開 会

日程第 2 会議録署名委員の指名

日程第 3 会議録の承認

日程第 4 教育長報告

日程第 5 教育部月例事業報告

日程第 6 議 事（会議に付すべき事件）

（1）協議事項

協第 1 号 袋井市幼小中一貫教育プログラムについて

協第 2 号 民生文教委員会所管事務調査：幼小中一貫教育の推進について

（2）報告事項

報第 1 号 寄附品「ヒーター」の受納について

報第 2 号 浅羽中学校施設整備基本構想について

報第 3 号 市税等収納強化月間の取組について

報第 4 号 放課後児童クラブ専用施設の整備について

報第 5 号 袋井駅南地区まちづくり事業 保育所整備に係る補助金について

報第 6 号 平成 29 年度卒園式・卒業式、平成 30 年度入園式・入学式につ

いて

日程第 7 その他

（1）連絡事項

ア 笠原こども園 園歌の歌詞を募集します

イ 平成 30 年袋井市成人式の結果について

ウ 袋井市立図書館だより「ふくぶっく」平成 30 年 2 月号

（2）次回定例会等の予定について

2 月定例教育委員会

2 月 23 日（金）午後 1 時 30 分～ 袋井市立袋井北小学校

(3) その他

日程第8 閉会

(午後3時53分閉会)

平成 30 年 1 月 袋井市教育委員会定例会 会議録（要旨）

1 開会

●鈴木教育長

それでは、ただ今から、平成 30 年 1 月袋井市教育委員会定例会を開会させていただきます。

2 会議録署名委員の指名

●鈴木教育長

袋井市教育委員会会議規則第 16 条第 2 項の規定に基づき、前嶋康枝委員 及び 上原富夫委員 を指名いたします。

3 会議録の承認

4 教育長の報告

●主な報告事項

- ・定例校長会（1 月 9 日）
 - ・第 2 回小・中学生理科研究プレゼンテーションコンテスト（1 月 21 日）
- その他は資料のとおり

5 教育部月例事業報告

●教育企画課

- ・第 2 回袋井市幼小中一貫教育推進委員会（2 月 7 日）

●おいしい給食課

- ・第 2 回食物アレルギー対応委員会（1 月 11 日）
- ・中部学校給食センター給食展（1 月 20 日）

●学校教育課

- ・京都府常陽市教育委員会視察（1 月 31 日）

●すこやか子ども課

- ・第 3 回袋井市子ども・子育て会議（1 月 29 日）
- ・平成 29 年度放課後子ども総合プラン運営委員会（1 月 30 日）
- ・第 4 回袋井市の就学前の子どもの教育・保育のあり方検討委員会（2 月 9 日）

●生涯学習課

- ・月見の里学遊館運営協議会（12 月 27 日）
- ・平成 30 年成人式（1 月 7 日）

- ・袋井市立図書館ボランティアのつどい講演会（2月3日）
- ・少年地域交流事業「どまん中交流」（2月3日～4日）
- ・さぬき映画祭「Magic Town」出品（2月10日～12日）
- ・第5回社会教育委員会（西部社会教育委員研修会）（2月19日）
- ・第2回文化財保護審議会（2月20日）
- ・第2回青少年健全育成会議（2月20日）

[質疑・意見]

●豊田委員

成人式に関してですが、会場入りが遅いことについて何か反省点はありますか。

●生涯学習課長

ところどころに実行委員が立って声掛けをして着席を促していますが、その場で話し込んでしまって、着席までに時間がかかるのが現状です。また対策を、実行委員会で話し合っていきたいと思います。

6 議事

【協議事項】

（1）協第1号 袋井市幼小中一貫教育プログラムについて

●教育企画課長

これまで、就学前カリキュラムや幼小接続カリキュラム、小中一貫教育の教科・教科外カリキュラムなどを作成し、報告してまいりましたが、内容がまとまりましたので、本市幼小中一貫教育プログラムとして協議するものです。本プログラムは、3つの構成となっています。1つ目は、本プログラムのねらいと構成について、2つ目は、就学前教育・幼小接続プログラムについて、3つ目は、小中一貫教育プログラムについてです。

まず、本プログラムのねらいは、幼児期の教育・保育の充実と小1プロブレムの解消、それから、学力向上、考える力の育成、中1ギャップの解消ということで、4つのカリキュラム、「就学前教育カリキュラム」、「幼小接続カリキュラム」、「教科カリキュラム」、「教科外カリキュラム」を作成・実施します。このうち、「就学前教育カリキュラム」は、主に生活習慣、学びに向かう力、思考・表現の基礎となる力の育成を目的としています。「幼小接続カリキュラム」は、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムです。「教科カリキュラム」は、主に基礎学力と考える力の育成をし、「教科外カリキュラム」は、キャリア教育、生活指導、行事・交流活動などを中心としています。

資料11ページを御覧ください。「就学前教育カリキュラム」として、子どもが就学までに身に付けたい力を10項目掲げて、年少期、年中期、年長期、小学校1年時に分けて、

それぞれ具体的に記載しました。本市の特徴としては、特に「(8) 思考力の芽生え」を掲げ、小中の思考力につながるように一貫して思考力を育成します。

次に、資料 16 ページの「幼小接続カリキュラム」ですが、5 歳児の 9 月から小学校 1 年の 5 月までを幼小接続期としてアプローチカリキュラムを作成しています。なお、私立の幼稚園・保育園などにも、この取り組みをお願いしたいと考えています。

資料 25 ページから 35 ページまでは、小中一貫教育プログラムで、主に思考スキルを導入する理由を丁寧に説明しています。36 ページは学びの系統表で、小学校 1 年から中学校 3 年まで、どの時期にどんな思考スキルを身につけさせたいかということに記載しています。これを基本にして、各教科、教科外でそれぞれ具体的な指導内容を資料 38 ページ以降のとおり作成し、今後は教師がこれにともとづいて授業を進めてまいります。なお、資料 11 ページの「就学前教育カリキュラム」のうち、先ほど本市の特徴と申し上げました「(8) 思考力の芽生え」の小学校 1 年の部分は、資料 37 ページの学びの系統表詳細版の小学校 1 年の部分と合致しています。

43 ページからは「教科外カリキュラム」です。44 ページは、キャリア教育の学びの系統表です。キャリア教育については、各教科においても関連性があるため、「直接的」、「間接的」、「日常的」、「道徳教育」の 4 種類に整理しました。47 ページは、生活指導・学習指導・家庭生活について記載しています。このうち、生活指導・学習指導は、学校での取り組みのためカリキュラムとしています。家庭生活は、家庭に協力を求めていくものとしてスタンダードとしています。51 ページは、行事・交流活動についての記載です。主な内容は、資料のアからエの 4 つですが、内容と方法については、各学校がこれまでの活動を踏まえながら自由に設定していただくようになっています。

今後、各中学校区で行っていただきます、中学校区の教育目標等の策定は、平成 31 年 12 月までを目途としています。また、中学校区カリキュラムの策定につきましても、同じく、平成 31 年 12 月までとしています。幼小中一貫教育の完全実施を平成 32 年 4 月としておりますので、これに間に合うように設定しています。

別冊の「就学前教育・幼小接続プログラム 就学前教育カリキュラム保育実践例」を御覧ください。16 の実践例を記載し、幼児教育終了までに身につけたい 10 の力ごとに記載しています。

今後は、定例校長会に配布をし、学校、幼稚園等に配布をしてまいります。また、2 月開催予定の幼小中一貫教育推進委員会にも報告をしてまいります。

[質疑・意見]

●上原委員

教科カリキュラムは、具体的に記載されていてわかりやすかったのですが、教科外カリキュラムについてわかりにくいです。例えばキャリア教育ですが、カリキュラムの内容が、日常的な学校教育活動の中に、どうのせてきて、具体性を持たせてカリキュラムとして指

導してくのか見えないです。

●教育企画課長

44 ページのキャリア教育の学びの系統表を御覧ください。各学年の段階で、このようなことができるという記載をしています。教科外ではありますが、キャリア教育については、全ての教科に関連性があるということで、教科ごとにキャリア教育を意識した内容を記載しています。

●学校教育課長

キャリア教育ですので、学生生活を終えて就職するときに必要な力を学校時代に学ぶ、ということが前提です。例えば小学校低学年ではあいさつです。仕事に行って「おはようございます」とか、仕事を終えて「お先に失礼します」とか、基本的な会話、あいさつができるようにします。小学校中学年や高学年になっていくと、例えば係活動というのがありますが、これは、自分の仕事に対して責任をもってやりとげる、というところにつながっています。このように、学校の様々な活動を、キャリア教育と関連付けながら指導をしていきます。夢を持たせるということもありますが、具体的な取り組みとしては、今申し上げたような係活動やあいさつ、人間関係づくりなど、様々なところに及んでその職業観を学ばせる、中学校では実際に職場体験で今まで学んだことを体験させて、その職業に関することに理解を深めるということで、9箇年のカリキュラムを作成していると御理解いただければと思います。

●鈴木教育長

44 ページの表の空欄部分は、各学校でこれから具体的な行事や内容が埋まってくるという理解でいいですか。例えば、郷土資料館がやってくれているような「昔の暮らし」などは、具体的な体験学習としてここに入ってくる。

●上原委員

空白なので何をやりたいのかわからない。人間関係形成・社会形成能力の行から下の欄は、こうしたことができるように、という目標のようなことが書いてありますが、それを養うために学校や教師は何をしていくのかということが見えない。現場で、子どもたちにキャリア教育をどうやっているのかと聞いたときに、答える先生がいらっしゃるかどうかですね。教科ごとの勉強を教えるときにこういうことを意識していますと、朝の挨拶もちゃんとできるようにしていますというレベルでしか返答がないと思います。わざわざ「キャリア」という言葉を使っているわけだから、もっと具体性があるといいのかなと思います。学校によって、地域によって違っていてもかまわないとは思いますが、一定の目安がないとカリキュラムにはならないと思います。これは、望ましい態度や考え方を書いてあるだけであって、カリキュラムではないと思います。

●教育企画課嶋田主幹

いまの御意見に関しては、56 ページを御覧ください。中学校区及び各学校の一貫カリキュラムは、このカリキュラムを基に各中学校区及び各学校で作成します。各中学校区で具体的な内容を入れていただきます。教育委員会で標準として具体的な内容を入れてしまうと、校区によってはできないものが出てきてしまう場合がありますので、考え方などを押さえることにとどめています。キャリア教育だけではなくて、生活指導、行事などについても、各中学校区で作っていただき、教育委員会でも把握して現場の指導を行っていきたいと考えています。

●上原委員

キャリア教育のカリキュラムの表について、下半分の教科の行は不要と思います。キャリア発達の課題に沿って、学校ごとにある程度特徴を持たせてこういった能力を持たせた

い、学ばせたい、ということであれば、空欄を広げて、各学校である程度自由度を持たせて記入できるというスタイルにしてはどうでしょうか。これを見ても学校の先生は理解できないと思います。

●大谷委員

キャリア教育というものは、総合的にすべての中で達成されていくのかなと思います。例えば国語の授業の中で、先生の問いに答えたり、漢字を覚えるだけではなくて、例えば、グループワークで役割を決めながら一つの課題に対して考察を深めていくとか、そういうことの中で能力が身についていくと思います。日常の生活の中で身についてくることは、カリキュラムとして示すことは難しいと思います。むしろ各教科の中でどういう形でキャリア教育を行っていくのかというのは、もう少し具体的であるべきなのかなと思います。教科ごとというのは難しいかもしれませんが、例えば部活動などはわかりやすいと思います。課題対応能力として、情報の理解・選択・処理とか、本質の理解とか、原因の追究とかありますが、教科の中でもこういうものは取り入れられて、キャリア教育となると思います。ただ、キャリアプランニング能力、働き方とかそういうことだけではなくて、能力そのものを身につけさせたいということであれば、この学科ではこの能力を身につけるといような、教科の中で指導が行われていく。44 ページの表は、該当がない教科に斜線が引かれていますが、斜線が引かれているところはやらなくていいのでしょうか。

●上原委員

キャリア教育カリキュラムの表から、教科の部分は全部削ればよいと思います。

●大谷委員

私は、この教科の部分は、キャリア教育に関係するから便宜上ここに記載しているだけであって、本来のキャリア教育ではないような気がします。だから、実際学校で行われているキャリア教育って具体的に何なのかなと思います。

●鈴木教育長

いま、キャリア教育そのものの定義が整理されていないので、事務局から説明をお願いします。

●教育企画課嶋田主幹

キャリア教育は、学校教育の中のベースとなるようなもので、これからは、自分たちで課題を見つけて、答えのないものに向かって自分なりの方策を立てながら答えを見つけていくという創造性が求められています。キャリア教育が目指すものはまさにそういったもので、これから自分たちが生きていくうえで必要なものを、いろいろな教科や教科外のところで、そういう資質を身につけていくという目標で、全教育活動の中で行っていきます。発達段階によって課題があって、小学校低学年であればこの程度の力をつけていきましょうと、そういう目標を共有して、そのあとの具体については、現在はそれぞれの学校ごとにキャリア教育の全体計画が作られています。これからは校区で1つのものを作って取り組んでいくということです。これをもとにして、教科のところについては、このような活動を校区としてやっていきましょうという、具体的な内容を入れていただくようになります。

●学校教育課

上原委員の御質問は、学校教育の内容を学校の中で行うことは当たり前で、それを知識として持ちながら外でやるのだから、それよりも市として校区として取り組む内容を充実してはどうか、ということだと思います。確かに教科の中では、例えば小学校の社会科では環境教育としてごみがどのようにして処理され、再生されるのかを学び、将来自分がそういう仕事に就いたときにどう生きるか、例えば数学では点字の配列が関数的な配列で福

祉に使えるとか、それを全面的にここに出すよりも、キャリア教育というのは新学習指導要領の中で、これまでは上級学校に任せる部分が大きかったものが、これからは小学校の段階からキャリア教育にきちんと取り組む姿勢が必要であると、小学校のうちから高等学校を卒業する自分を見据えた教育をやっていきたいと思いますということが出ています。いままで高等学校に任せればよいとしてきた内容を、もう少し具体的な取り組みとしてここに表記していったほうがふさわしいと、私自身もとらえています。

●前嶋委員

要するに、キャリア教育を、行事や生活科などで何かしらをやることによって4つの力が培われるということですね。ある生徒の話で、中学生の時に、袋井商業高校生が自分でしっかりものを言っていることにとっても感動したという作文を読んだことがあります。だから私も袋井商業高校に入ってそれをやってみたいという話です。これは、まさしくキャリア教育で、実際に良いものを見たことで自分を高めることができたということです。これがやらされるものであっては、何の力にもならないと思います。教員が、子どもたちが自発的にやれるようにもっていくようにすることが大切だと思いました。そのために、周りの大人や学校がいかに上手に手立てをするか、ほめる・認める、自己有用感のすべてがキャリア教育につながっていくのかなと思いました。

●鈴木教育長

43 ページを御覧ください。キャリア教育とは何かという私の理解ですが、以前は、「キャリアプランニング能力」という部分が狭義のキャリア教育でした。例えば高校では、就職とか進学とか、進路に関することを子どもたちに教えたり考えさせることをキャリア教育としていました。ところが、社会人として自立することがキャリア教育として重要だということで、キャリア教育の範囲がだんだん広がっていきました。その上に、人間関係形成・社会形成能力、つまり社会人として人間関係は大事だよねとか、自己理解・自己管理能力や、課題対応能力も必要だねと、どんどんキャリア教育の内容が拡大していった。この43 ページの表は、本市が掲げた自立力と社会力、こういうことができると自立力、社会力がありますよというものと、中教審が求めている、子どもたちに社会人として必要な資質として期待するものとが対応していることがわかる表になっています。「中教審答申による基礎的・汎用的能力」の表の中でアンダーラインを引いてある箇所は、上の表に対応していることを示しています。本市は、幼小中一貫教育を通じて自立力と社会力を掲げた段階で、キャリア教育をやりますと言っているということです。44 ページの表については、「キャリアプランニング能力」の行が重要で、ここ以外は各学校で考えていただいてもいいくらいだと思っています。ここだけ注目すればわかりますが、委員御指摘のとおり、教科の部分などはわかりにくい表だと思います。ポイントは、キャリア教育の内容がどんどん広がって、課長が説明したように教育活動全般に関わってくるようになったということで、これを整理するのはちょっと難しいと思っています。

●上原委員

いまのお話で、私の理解はだいぶ進みましたが、キャリア教育カリキュラムをここで出すのは順番が違うと思います。なぜなら、袋井の教育や幼小中一貫教育の目標・目的そのものが、ここに書いてあるキャリアプランニングに直結している、ここで小さなセンテンスで出すような内容ではないと思うからです。キャリア教育は、自立力、社会力を育む根本となる中身で、社会人としての基礎的な力ですよ。文科省が使っている言葉なので「キャリア」というと何か新しいものかと思ってしまう誤解を招くような表現なので、このページはないほうがいいと思います。

●大谷委員

教科を入れるのであればきちんとしなければいけないし、できないのであれば外したほうが良いと思います。各教科は間接的キャリア教育と書いてありますが、教科を入れるのであればやはり具体的に入れていくほうが良いと思います。教科ごとにキャリア教育を展開していくものかどうかというのが、私もこの表を見て全くわかりません。

●豊田委員

キャリアプランニング能力って、将来なりたい姿のイメージがあって、それに向かっていくのに、人間形成ではこういうことが必要ですよ、この教科ではこういうところに役立ちますよということでプランができていくと思います。教科は後からついてくるものだと思うので、表にするのであれば、横にはつきたい力を並べて、縦は各学年、そこに各教科の内容が入るようにすれば分かりやすいと思います。

●学校教育課長

キャリア教育には、教科書に書いてある内容に雑学が加わります。例えば、橋を架けるときにワイヤーはたるんでいるように見えますが、数学的な計算があってそう見えています。ある程度教員にそういう雑学がないと子どもたちに指導ができないものもありますので、教科についてはこの表から外して、それよりも市の方針である自立力・社会力に関するものをここに書いていただき、教科の前に持ってくるほうがふさわしいと思います。

●鈴木教育長

44 ページの表については、教科の部分について記載できるのかということと、キャリアプランニング能力を軸とした表になるよう事務局で再検討してください。各教科の扱いについては45 ページの説明でも十分だと思います。また、49 ページの生活指導カリキュラムの表も44 ページと重なっている部分があります。そういうことも含めて、キャリア教育については、もう少しコンパクトにして狙いがわかるものに事務局で検討してください。43 ページの作りも説明がないとわかりにくいのでお願いします。

●大谷委員

このプログラムは誰が見るものですか。

●教育企画課長

幼小中の先生方です。これを標準カリキュラムとして、先生方に理解していただき、各校区でカリキュラムを作って教育にあたります。

●大谷委員

幼小中一貫教育には、実際には家庭や地域の力が必要だと思います。これは専門的な内容ですが、家庭や地域の方に協力していただくためにも、わかりやすく説明できるようなものを作るといいと思います。

●教育企画課長

今後、保護者や地域の皆さんに、これに関して説明できるような概要的なものを作って周知するよう検討いたします。

●大谷委員

なるべく早く周知されるよう要望いたします。

●教育企画課嶋田主幹

今後のスケジュールについては、50 ページを御覧ください。幼児教育・就学前教育については、来年度当初に保護者や地域のみなさんにリーフレットを配布するように作成を進めています。教科の思考スキルの考え方については検討中です。

●鈴木教育長

教科のカリキュラムは共通カリキュラムです。これをベースとして、どの学校も行って

まいります。各学校でこれまで実施してきた総合的な学習とか、地域の特性を生かした学習については、各校区の特色となります。

(2) 協第2号 民生文教委員会所管事務調査：幼小中一貫教育の推進について

●学校教育課長

本件は、2月の市議会民生文教委員会所管事務調査への報告内容として協議するものです。「地域の特色を活かした地域とともにある教育活動」ということで、主にコミュニティ・スクールの内容について説明をするものです。

児童生徒が抱える問題が多様化する中、学校だけでの対応が難しい状況になってきており、家庭や地域社会での教育の充実を図るとともに、社会の幅広い教育機能を活性化していく必要が生じているという背景の中で、新学習指導要領では特に、社会に開かれた教育課程ということが求められています。これは、社会自体が学校教育に求めるものについて指導をしてほしいということと、地域の人材を活用した特色のある教育課程の編成をしてほしいということが含まれております。

本市のコミュニティ・スクールは、実際には平成28年度から実施をしており、学校運営協議会の規則にのっとり市内16校に設置されました。現在運営協議会委員は147名、本年度は委員の研修会も行い推進をしております。各校の活動については、年間3回から4回会議を開催し、学校が抱えている問題等について協議をするということで、それぞれ地域の特性や要望等が色濃く反映される形になっています。コミュニティ・スクールの実践の良さを発表するなど、市全体の活性化を図ります。地域の方が学校に対してやりがいを持って取り組んでくれる方が増えたことで、人材の掘り起こしにつながっています。課題としては、頑張りすぎて負担にならないように努めることと、幼小中一貫教育の進展に伴って、現在ある各校の協議会を、校区ごとの設置とすることが可能かどうか検討する必要があります。

資料2は、文科省のパンフレットを参考に、袋井市版コミュニティ・スクールのパンフレットを作成したものです。コミュニティ・スクールのわかりやすい説明に活用しています。10ページには、学校運営協議会と学校支援地域本部との違いが書かれています。非常にわかりにくい組織ですが、これは県教委の所管課が違うもので、お互いが協力して進めています。その他詳細は資料のとおり。

[質疑・意見]

●鈴木教育長

21ページの高南小の表がずれていますので、修正をお願いします。

●学校教育課長

修正いたします。

●鈴木教育長

来年度の研修会は予定していますか。

●学校教育課長

平成31年8月27日を予定しています。

●鈴木教育長

本案は、原案のとおり承認します。

【報告事項】

（３）報第１号 寄附品「ヒーター」の受納について

●教育企画課長

周南中学校の部活動の充実のために、10万円相当のヒーターをいただきましたので報告いたします。

（４）報第２号 浅羽中学校施設整備基本構想について

●教育企画課長

浅羽中学校の施設整備の基本構想を策定いたしましたので報告いたします。まず、施設整備に関する動向・状況については、建築後52年で市内教育施設の中でも突出して古く、老朽化が進んでいることから、整備に向けた基本的な構想を示すということです。学校・地域の現況については、生徒数の推計が、平成29年度は586人ですが、平成39年には481人となる見込みで、約100人の減と推計しています。建物の耐震性については、北棟と体育館は比較的新しいため耐震性に問題なしですが、中棟、南棟、格技場は、早急な耐震補強または改築を必要としています。劣化の状況は資料6ページ、7ページのとおり。基本的な整備方針については、主に、施設一体型の小中一貫教育にも対応できるように検討します。整備手法としては、コスト面や長期的な学校運営を考慮した結果、3棟を改築して2棟とする案でプロポーザル方式で設計業者の選定を行いますが、プロポーザルの中で改築以上に優れた手法が提案された場合には、基本設計の中で再度比較検討をします。その他詳細は資料のとおり。

[質疑・意見]

●鈴木教育長

基本的な方針の中にある、地域に開かれた交流スペースや、小中一貫施設一体型への対応についての具体的な提案はありますか。

●教育企画課長

それも設計の中で行っていきます。地域に開かれた学校というのは、コミュニティ・スクールがありますので地域の方々が来れるようにするという事、施設一体型については、敷地内に増築可能なスペースを残しておくことを考えています。

●大谷委員

児童数はなぜこんなに減るのでしょうか。

●教育企画課長

3・11東日本大震災以降、出生数や若者の数が減っています。この推測は、現在の出生数や子どもの数を根拠としていますので、今後校区内に宅造等があれば数が変動します。

（５）報第３号 市税等収納強化月間の取組について

●すこやか子ども課長

本件は、市内全体で11月を滞納整理強化月間として、すこやか子ども課職員全員で、保育所保育料、幼稚園保育料及び幼稚園預かり保育料の滞納整理を行った結果を報告するものです。詳細は資料のとおり。

(6) 報第4号 放課後児童クラブ専用施設の整備について

●すこやか子ども課長

放課後児童クラブについては、平成31年度までに全小学校区で6年生まで受け入れるという国の方針に基づき、計画的に整備を進めています。平成30年度は、袋井東及び袋井西小学校区の放課後児童クラブ専用施設を整備します。詳細は資料のとおり。

●鈴木教育長

袋井西小については、コミュニティセンターの改築にあわせて複合施設も検討いたしましたが、100人規模となると受け入れが難しいということで、別に建てるということになりました。

(7) 報第5号 袋井駅南地区まちづくり事業 保育所整備に係る補助金について

●すこやか子ども課長

本件は、三宝会さんが駅南地区に31年開設予定の保育所新設に伴う補助金です。この中で、造成費についてはこれまで補助した経緯はありませんが、駅南まちづくり、待機児童対策ということで、いずれの保育園にも声をかけさせていただきましたが、なかなか経費がかかるということでどこも出てくれませんでした。そのような中、三宝会さんが手を挙げてくださいましたので、造成費の補助をするという形で話を進めさせていただいております。このほか、運営費に対する借入金の補助、土地賃借料補助についても同じ理由です。施設の規模は0歳から5歳まで120人定員です。

(8) 報第6号 平成29年度卒園式・卒業式、平成30年度入園式・入学式について

●学校教育課長

資料のと通りの日程で開催いたしますので、ぜひ御出席をお願いいたします。

7 その他

各課から配付資料について説明がありました。

●すこやか子ども課長

笠原こども園 園歌の歌詞を募集します

●生涯学習課長

平成30年袋井市成人式の結果について

●袋井図書館長

袋井市立図書館だより「ふくぶっく」平成30年2月号

8 閉会

(午後3時53分閉会)